



ご当地 **よ坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No. 621

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

April
2021
令和3年

4



Contents

デンタルアイ	1
黒澤 俊夫	
理事会報告	3
会務日誌	4
学術委員会だより	7
地域保健委員会だより	10
介護保険委員会だより	12
専門学校だより	14
地区歯科医師会だより	17
加藤 毅	
寄稿	19
田中 晃伸	

表紙写真について

王仁塚（わにづか）桜

山梨県韮崎市神山 4月上旬
エドヒガンザクラ 樹齢300年、樹高17m、
幹周り3.3m

桜の木の下、根面にスミレの花が群生している。
丸い画像にしてみました。



（社）茨城県南歯科医師会 斉藤 澄夫

「健康寿命延伸」に向けて、 私たち「かかりつけ歯科医」に 求められているもの



副会長
黒 澤 俊 夫

人生100年時代を迎え、これからの私たち「かかりつけ歯科医」に求められているものは何かを見つめてなおしてみました。このところ糖尿病と歯周病の双方向性の関係について、その認知度は上がっているものの、いまだ医療者や受療者（県民）への理解は敷衍されず実効的な医科歯科連携には至っていない現状があります。

昨年9月、100歳以上の高齢者（百寿者、センテナリアン）は、ついに8万人を突破との報道がありました。百寿者に共通して言えるのは、糖尿病と動脈硬化が少ないこと。特筆すべきは、糖尿病罹患率が6%と大変少なかったこと、さらに110歳以上の超百寿者では3%と罹患率はぐっと下がります。一般的に70歳代の罹患率は20%程度ですから、糖尿病になりにくいことは百寿達成へのパスポートとも捉えることができます。

2007年より滋賀県長浜市で行われている「長浜0次予防コホート事業」の解析では、喪失歯数と動脈硬化度に有意な関連があることが分かりました。そして、口の中の予防や治療は単に口の中の病気を改善させるだけでなく、動脈硬化を予防する可能性が高いことが示唆されています。いっぽう、動脈硬化が関わる病気に心筋梗塞や脳梗塞がありますが、死亡数を併せると

年間約30万人、全死亡数の25%と報告されています。これらは後遺症が残ることも多く、治療や介護が長期にわたり虚血性心疾患に約7千億円、脳血管障害に約1兆7千億円と膨大な医療費が費やされている推計があります。これらのコホート事業の解析や動脈硬化性疾患に対して費やされる膨大な医療費を考えたとき、社会的かつ医療経済的側面からみても、「かかりつけ歯科医」による継続的な口腔ケアは、計り知れないほどの潜在的な貢献度を秘めていると言えます。

このほど（2021年3月）、国立がん研究センターなど国立高度専門医療研究センター6機関は、懸案だった日本人の健康寿命延伸のために必要な予防行動について、エビデンスにもとづき貴重な提言を発表しています。

それによりますと健康寿命延伸には、◇喫煙、◇飲酒、◇食事、◇体格、身体活動、◇心理社会的要因、◇感染症、◇健診・検診の受診と口腔ケア、◇成育歴・育児歴、◇健康の社会的決定の10の要因が深く関わることが示され、それぞれの具体的な対処方法が説かれています。歯科医療については、喫煙はじめ多くの要因と深い関わりを持っていることがわかります。特に口腔ケアの効果については、糖尿病予

防への歯周病治療の有益性、歯周病は循環器病を発症しやすいこと、頸動脈硬化症と歯周病や咀嚼能力との関連、咀嚼能力の低下とサルコペニア及び軽度認知障害との関連、オーラルフレイルは、身体的フレイル、サルコペニア、要介護、死亡リスクが高まる事、口腔内を清潔に保つことは肺炎予防効果があること、食事を楽しむことは高齢者の低栄養の予防につながることで、歯周病は早産のリスクになること等全身のさまざまな領域に波及することを確かなエビデンスをもって証しています。

このように日本を代表する医療外郭団体の提言や地域におけるコホート研究の成果は、健康寿命延伸を担う私たち「かかりつけ歯科医」への応援のメッセージであり、熱いまなざしが注がれている証左であるよう思えてなりません、そして、明らかなエビデンスをもって、口腔の健康は全身の健康を潤すことを強く支持しているわけですからこの機を逃さず、私たち「かかりつけ歯科医」は口腔からはじまる健康寿命延伸の効果を歯科受療者（県民）に発信し広く伝えなければなりません。

現在、日立製作所を母体とする日立健康管理センターでは、人間ドックに一般的な検診項目に加え歯科健診を取り入れて従業員の健康経営を実践しています。企業の財産は人であり、一人一人の健康が経営の基盤となっていることから、多くの企業にとって従業員の健康経営を実践することは大きな命題となっています。そして大阪大学、ライオン研究所の産学共同事業

に日立歯科医師会も加わり、健診後のフォローアップを行うというビッグプロジェクトを展開しています。口腔診査には唾液を用いた生化学的検査システムを採り入れ、健診後の適切な指導、治療、管理によって糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防できるという視点から客観的データを積み上げています。さらにレセプトデータから口腔の健康と生活習慣病の関わりを検証することにより医療費の適正化に向けて積極的に取り組んでいます。今後、「かかりつけ歯科医」としては、このような数値で示せる簡便な検査方法等を用いて、歯周病等口腔と全身の健康との関わりについて、医療者や受療者（県民）に信頼され、理解しやすい手立てを築き上げていくことも肝要と思われます。

来たる4月25日（日）、歯科医師会館にて待望の西田 亙先生（松山市開業・糖尿病専門医）を迎えて健康フォーラムが開催されます。コロナウイルス感染症もあり、西田先生のご登壇は実に3年越しの企画でようやく実現しました。西田先生には、会員のみならず多数の県民の皆さまに、「お口からはじまる健やかな人生」についてわかりやすく、有意義なお話をいただけるものと心躍らせています。今回はオンライン配信とはなりますが、このフォーラムが、私たち「かかりつけ歯科医」による口腔健康管理は全身の健康を潤し、諸疾患の予防に貢献できることを県民の皆さまと共に分かち合い、健康寿命延伸を進めていく一助となれば幸いです。

理事会報告

第11回理事会

日 時 令和3年2月18日（木）午後4時
場 所 茨城県歯科医師会館 会議室（Web会議）
報告者 柴岡 永子

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 監査報告

4. 連盟報告

5. 報 告

(1) 一般会務報告

(3) 開業予定の歯科医院について

(4) 疾病共済金の支払いについて

(5) 新型コロナウイルス感染症ワクチン優先接種の申請状況について

(6) 各委員会報告について

医療管理委員会、介護保険委員会、学校歯科委員会、社会保険委員会、専門学校

6. 協議事項

(1) 入会申込書の受理について 承認

(2) 歯科保健の啓発活動の補助について【日立 歯科医師会】 承認

(3) 茨城県各歯科大学同窓会・校友会懇話会からの要望について 承認

(4) 第29回茨城県歯科医学会について 承認

(5) YouTubeを利用した施設基準講習の企画について 承認

(6) 妊産婦の歯科治療における投薬の注意点について 了承する

(7) 各委員会におけるWeb会議・研修会について 承認

(8) その他

○行事予定について

2月21日（日）9時から

第29回茨城県歯科医学会（会館）

3月18日（木）16時から 第12回理事会

会務日誌

- 2月18日 第4回業務・会計監査を執行。業務並びに制度に関する監査（12月1日～1月31日）、会計に関する監査（収支現況）を実施した。
- 出席者 鈴木監事ほか7名
- 2月18日 第11回理事会を開催。入会申込書の受理、歯科保健の啓発活動の補助について【日立歯科医師会】、茨城県各歯科大学同窓会・校友会懇話会からの要望、第29回茨城県歯科医学会、YouTubeを利用した施設基準講習の企画、妊産婦の歯科治療における投薬の注意点、各委員会におけるWeb会議・研修会について協議を行った。
- 出席者 森永会長ほか17名
- 2月18日 第3回選挙管理委員会を開催。会長予備選挙立候補者の資格審査、役員選挙、日本歯科医師会代議員・予備代議員選挙について協議を行った。
- 出席者 堀江選挙管理委員長ほか7名
- 2月21日 第29回茨城県歯科医学会を開催。今回は新型コロナウイルスの影響により演者以外の来館を中止し、Web受講という形で一般口演、ポスター発表と特別講演のみに規模を縮小して茨歯会館にて開催した。
- 2月21日 第9回学術委員会を開催。歯科医学会の気になった点、事後抄録の校正、シンポジウム、第30回茨城県歯科医学会の開催について協議を行った。
- 出席者 今湊学術部長ほか9名
- 2月23日 第7回学校歯科委員会を開催。学校歯科医生涯研修制度基礎研修及び更新研修の予演の予演の打合せを行った。
- 出席者 鶴屋学校歯科部長ほか10名
- 2月24日 第5回日歯議事運営特別委員会がWeb会議として開催され、第194回臨時代議員会の議事運営及び事前質問（地区代表・個人）の取扱い、報告書の作成について協議が行われた。
- 出席者 森永日歯代議員会議長
- 2月25日 第25回日本歯科医師会理事会がWeb会議として開催され、公益社団法人日本歯科医師会事務局組織規程施行細則の一部改正ほかについて協議が行われた。
- 出席者 征矢日本歯科医師会理事
- 2月25日 第2回へき地医療支援計画策定会議がWeb会議として開催され、令和2年度へき地医療支援機構事業実施状況ほかについて協議が行われた後、県へき地医療支援計画に基づく研修（講演）が行われた。
- 出席者 今湊理事
- 2月26日 都道府県会長会議がWeb会議として開催され、時局対策について協議が行われた。
- 出席者 森永会長

- 2月28日 介護保険講習会を日立市保健センターにて開催。「歯科医師が担う在宅医療」～高齢者の心身の特性と口腔管理～の演題で、茨城県歯科医師会介護保険委員の三木次郎先生が講演された。また、Web受講も可能とすることで、会場での密を防止することができた。
- 受講者 51名
- 3月 3日 第1回いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会運営委員会をWeb会議として開催し、令和3年度委員の構成、新たなメーリングリストへの移行、令和3年度事業、IBSD資格更新に係る準備等について協議を行った。
- 出席者 荻野SHPいばらき運営委員長ほか7名
- 3月 4日 第6回地域保健委員会を開催。歯科特殊健康診断認定歯科医師講習会の打ち合わせ、準備、役割分担を確認した。
- 出席者 北見地域保健部長ほか4名
- 3月 4日 歯科特殊健康診断認定歯科医師講習会を開催。産業口腔保健統括マネージャーの伊藤博明先生、戒田敏之先生が「歯科医師による健康診断」について講習を行い、その後質疑応答を行った。また、Web受講も可能とすることで、会場での密を防止することができた。
- 受講者 22名
- 3月 7日 第4回選挙管理委員会を開催。開票日の日程、開票作業について協議を行った。
- 出席者 堀江選挙管理委員長ほか7名
- 3月 9日 茨城歯科専門学校において卒業式を挙行。歯科衛生士科48名、歯科技工士科7名の学生が本校を卒業した。
- 3月 9日 第11回医療管理委員会をWeb会議として開催。スタッフセミナーの事前打合せを行った。
- 出席者 大字医療管理部長ほか9名
- 3月11日 第5回厚生委員会をひたちなか市内で開催し、地区対抗ゴルフ大会について協議を行った。
- 出席者 沼田厚生部長ほか7名
- 3月11日 第26回日本歯科医師会理事会が日歯会館にて開催され、時局対策、第194回臨時代議員会の運営について協議が行われた。
- 出席者 森永日歯代議員会議長ほか1名
- 3月11日 第8回学校歯科委員会をWeb会議として開催。各地区での通信テストに関して、県歯での通信テスト、更新研修の流れ、入退出者の確認管理、その他の質問事項について協議を行った。
- 出席者 鶴屋学校歯科部長ほか10名
- 3月12日 第194回日歯臨時代議員会が日歯会館にて開催された。令和3年度事業計画、入会金及び会費の額、収支予算、資金調達及び設備投資の見込み、役員選挙規則の一部改正の件について議事が行われ、全議案可決、承認された。今回は新型コロナウイルスの影響により会期の短縮、書面による議決権行使が採用された。
- 出席者 森永日歯代議員会議長
- 3月14日 認知症対応力向上研修会をWeb講習として開催。事前に収録した3題の認知症の人への支

援体制構築に関する内容をYoutubeにて配信した。

受講者 48名

3月14日 スタッフセミナーをWeb講義として開催。「PS（患者様満足）向上のために」の内容で、元日本航空客室乗員訓練部教官・政府専用機初代担任教官の小原孝子先生が講義された。

受講者 23名

3月17日 第3回講師会をWeb参加併用で開催し、進級判定及び単位認定、特待生の選考等について協議を行った。

出席者 征矢校長ほか13名（内Web参加6名）



株式会社 岩瀬歯科商会



イワセオリジナルユニット
SIGNO NEXT

こだわりと好みをひとつずつ反映しながら、
ワンランク上のラグジュアリー空間と
心地よさを演出します。



これまでも、これからの未来を、いっしょに。
Iwase Dental Supply Inc. 1997-2021

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。
皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

製造販売・製造

株式会社モリタ東京製作所

本社〒260-0815 埼玉県さいたま市中央区上落合2-1-24 TEL: 048-832-1315
伊勢工場 埼玉県北足立郡伊勢町小室7129 TEL: 048-723-2621

発売

株式会社モリタ

大阪本社 大阪府吹田市豊津区3-33-18 TEL: 06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 TEL: 03-3834-6161

事業所案内

本社	台東区台東2-23-7	TEL: 03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL: 028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL: 029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL: 047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL: 043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL: 03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL: 0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL: 024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL: 03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11	TEL: 03-5912-1180
横浜支店	横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL: 045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19	TEL: 045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL: 027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2	TEL: 027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL: 046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL: 048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL: 019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL: 042-590-5770



第29回茨城県歯科医学会開催

学術委員会 今村 由紀

2021年2月21日（日）、第29回茨城県歯科医学会が茨城県歯科医師会館にて開催されました。昨年開催を予定されていた第28回茨城県歯科医学会は新型コロナウイルス感染拡大の影響でやむなく中止となったため、2年ぶりの開催となりました。茨城県歯科医学会は例年水戸プラザホテルを会場とし、一般口演やポスター発表のほか、県民公開講座、各委員会企画や併催として茨城デンタルショーが行われていましたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況下にあることから、今回は演者以外の来館を中止し、一般会員とデンタルスタッフはWeb受講という形で、一般口演、ポスター発表と特別講演のみに規模を縮小して開催されました。



会場参加者には受付での検温、手指のアルコール消毒を徹底し、マスク着用義務化、ソーシャルディスタンスを確保しての着席、窓・ドアを開けての換気など、出来る限りの感染対策をして臨みました。

開会式は中井巳智代統括マネージャーの司会に

て進行し、森永和男会長の挨拶、来賓の紹介（茨城県歯科衛生士会会長 芹澤鏡子様、茨城県歯科技工士会会長 瀬谷公子様）が行われました。



開会式後、午前中は15題の一般口演が会場で行われ、同時にWeb配信されました。また、6題のポスター発表は茨城県歯科医師会ホームページにて期間限定で会員向けに公開されました。会場での質疑応答のほか、Web受講された会員からの質問はホームページからの受付となりました。多数の口腔外科症例、歯科衛生士会、口腔ケア、多職種連携、口腔センター、静脈内鎮静法、矯正歯科、補綴関連、歯科衛生過程など幅広い分野から



の口演発表が行われ、大変充実した内容でした。

昼食は茨城県産の食材を豊富に使用した恒例の「囃むかむ弁当」を各自ソーシャルディスタンスを取りながらの「黙食」ではありましたが、とても美味しく頂きました。

午後からはWeb配信による特別講演が行われました。特別講演Ⅰは大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学教室教授、天野敦雄先生から「健口は幸せを感じやすい脳を作る～コロナ時代を生き抜く智慧～」と題し、う蝕や歯周病を起こさせないためのバイオフィルムの管理についてご講演頂きました。「削ってつめて治す」という考え方だけでなく「Microbial shiftをコントロールする」という考え方を持つことの重要性をお話し頂きました。正しいSRPの実演動画、幸せの青い鳥の見つけ方、幸せホルモンの増やし方など、歯の話にとどまらない大変興味深いお話が満載で、会場内が終始笑い声に溢れたご講演でした。



特別講演Ⅱは日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学講座教授、中原 貴先生から「バイオ再生医療と歯の細胞バンク」と題し、最近マスコミに取り上げられる機会も増えている「歯の再生医療」について、最前線の実情をご講演頂きました。歯の細胞は再生医療の分野に大きな可能性を持っており、その活用は決して夢物語ではなく、着実に実現化が進められていることを、実際のラボでの作業の様子や歯の細胞バンク認定医講習会の様子を含めてご説明頂き、歯科医療が担う輝かしい未来図にとってもワクワクする思いで拝聴しま

した。



第18回福田賞は、東京医科大学茨城医療センター歯科口腔外科（土浦石岡歯科医師会）松尾 朗先生が受賞され、お言葉を述べられました。最後に今湊良証学術部長の講評・閉会の辞にて終了しました。



今学会は1日を通して会場とWebでの同時開催となりましたが、進行上の大きなトラブルもなく、予定された全てのプログラムが滞りなく開催できましたことは、今後のウィズコロナ、アフターコロナでの学会開催の多様性を考える上で大変貴重な機会であったと思います。新型コロナウイルスの感染拡大というやむを得ない理由ではありましたが、Web受講であったからこそ、遠方であったり、育児・介護など様々な事情で学会への現地参加が難しい先生方にもご参加頂けたという利点もあったのではないのでしょうか。

学術委員会では、これから第29巻茨城県歯科医学会誌を編集し今秋に発刊予定です。一般口演、ポスター発表、特別講演の事後抄録は第29巻の発刊をお待ち下さい。次回の演題申し込みは学会誌の「第30回茨城県歯科医学会のご案内」演題募集

要項をご覧ください。併せて、投稿論文も受け付けています。

次回の第30回茨城県歯科医学会は来年3月13日（日）水戸プラザホテルにて開催予定です。新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえて開催

形式を慎重に判断することになりますが、第30回の記念大会となりますので、会員の皆様よりご意見、ご要望を承り、一層充実した開催が行われますよう祈念しております。会員の皆様のご発表、ご参加、ご協力を是非ともお願い致します。

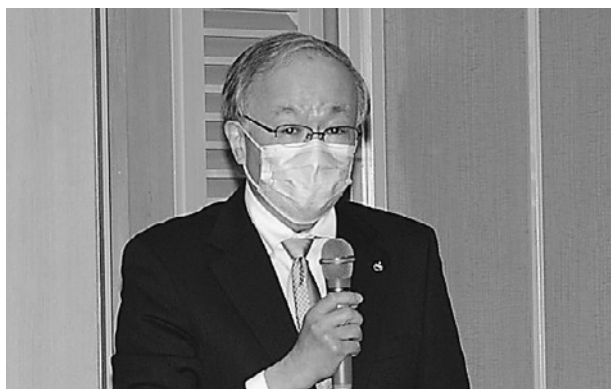
歯科特殊健康診断認定講習会報告

地域保健委員会 佐藤 慶尚

令和3年3月4日（木）に茨城県歯科医師会館3階講堂にて講習会「歯科特殊健康診断認定講習会」が開催されましたので報告いたします。

今回の講習会は、会場での参加とWebでの同時配信による形式で行いました。参加者は、会場受講者が7名（内4名新規受講者）、Web受講者が15名（内6名新規）、合計22名（内10名新規受講者）でした。

講演は、茨城県歯科医師会産業口腔保健統括マネージャー、労働衛生コンサルタントの伊藤博明先生と、茨城県歯科医師会産業口腔保健統括マネージャー、労働衛生コンサルタント、産業保健総合支援センター産業保健相談員の戒田敏之先生が講演されました。



（北見理事 挨拶）

まず、地域保健担当理事の北見英理先生より挨拶と趣旨説明があり、この講習会も5年目になり、200名を超える登録医数であるということと、歯科特殊健康診断登録医に、アンケートを行った結果の報告がありました。

最初に伊藤博明先生より「歯科医師による健康

診断」をテーマとして歯科特殊健康診断とはどういうものなのか、目的や流れ、報告について講演されました。

歯科特殊健康診断は、労働衛生法に基づく特殊健康診断の1つで、事業者の法的義務や事業場労働者の安全衛生の向上を図ることを目的として歯科医師が実施します。

特殊健康診断は「むし歯」や「歯周病」の健康診断ではなく、労働衛生対策上、特に有害だといわれている業務に従事する労働者を対象として実施する健康診断で、有害業務に起因する健康状況を調べる健康診断です。

実施時間は就業時間内で実施し、時間外であれば残業手当等の支給や歯科医院で実施ならば交通費が必要となります。

労働衛生管理の考え方は、3つの管理を考えながら労働者の健康を考えます。

- ① 作業環境管理（作業場の空気の管理）
- ② 作業管理（作業のやり方、保護具の管理）
- ③ 健康管理（健康診断を中心とした管理）

この3つを労働衛生における3管理といい、これに衛生管理体制と衛生教育とを加えて5管理（5本の柱）ともいい、労働衛生の進め方の基本となります。

歯科特殊健康診断の内容は、有害要因（酸、フッ化水素、黄りん等）や、口腔に現れる健康障害症状（歯牙酸蝕症、口内炎、皮膚炎等）をみる。

行う時は、う蝕と歯周疾患のことは忘れる。そ

して問診は必須で、問診をやらない特殊健康診断はあり得ません。

手順と流れですが、以下のようになります。

- ① **衛生担当者・衛生推進者・担当者との打ち合わせ**
相互の信頼と歯科特殊健康診断に対する理解を深める。

内容の確認、事業者からの要望の確認

- ② **実施日・時間・場所・料金等の決定**

問診票・業務歴等は事業者が事前に記入する。

- ③ **歯科特殊健康診断の実施**

実施前に該当作業場の職場巡視をする事が望ましい場合によっては、作業場の見取り図や作業環境測定の結果も確認する。

- ④ **歯科特殊健診実施時の歯科保健・健康教育指導、衛生教育を行う**

- ⑤ **結果報告**

事業への報告&事業者を通じて、管轄の労働基準監督署に報告する。

- ⑥ **定期的歯科健康診断を実施**

6ヶ月以内毎に1回、こちらから連絡をして定期的に行う。

鑑別診断のためには、詳細な問診・職場巡視・写真は必須となります。

問診は、作業歴・作業頻度・取扱物質の使用量・作業方法・保護具の使用状況・換気の有無などを聞きます。職場巡視は重要であり、対象が人数や事業内容ではなく場所であり、現場を見ることにより口の中だけでは分からない情報が得られます。写真ですが、できれば年1回写真を取るようにします。通常の健診票では表現できない情報が写真の中にあります。その場限りでは経時変化が分かりにくいので口腔内写真を活用する事が大切です。

報告は健康診断個人表に事業者が記入管理するための情報提供や、事業者宛に歯科特殊健康診断結果報告書の提出、そして事業者が労働基準監督署長へ報告をします。そして、担当認定歯科医師は歯科特殊健康診断終了後、1ヶ月以内に茨城県

歯科医師会事務局に終了報告をします。

続いて、戒田敏之先生が「茨城県歯科医師会での歯科医師による特殊健康診断への今後の対応」をテーマに講演されました。

認定歯科医師制度の問題点や、歯科医師に求められる対応としては、事業者は費用のかかる健診に消極的な対応が見られることから、歯科医師は正確な知識の必要性、制度の高い健診の確立、法令に沿った実施、個人の責任によって実施、事業者との個別の対応が求められ、学校健診と違い、待っていても連絡は来ないので、積極的に行動する。

茨城県歯科医師会産業保健への今後の方針として、歯科医師特殊健康診断は、事業者との信頼関係の上に実施される事業であり、茨城県歯科医師会会員で、かつ会務に協力的で、認定歯科医師として事業に積極的に協力でき、健診の精度の向上に関与できる先生に実施して頂きたいということでした。



(講師 戒田敏之先生 伊藤博明先生)

今回の講習会で、歯科特殊健康診断の事、有害な化学物質の事、事業者側には、健診をする必要性や職場巡視の必要性、そして作業者でなく、作業場所を見ろということなど、しっかり説明することが大事であり、こちら側から積極的に行動をし、電話やメールによりコミュニケーションを図り、信頼関係を築く事が重要だという事を整理する事ができました。

今後は、化学物質に対する知識を深め、資格だけでなく実際に産業現場で活動できるようにしていこうと思います。

歯科医師認知症対応力向上研修会の背景

介護保険委員会 小野寺 鏡子

今年で4年目となる認知症対応力向上研修会は会員皆様のご協力の下、2月・3月と2回の研修を無事終了しました。昨年度より、少しでも受講者の増員になる様にと、一年度で2回の講習会開催を計画しました。昨年度は新型コロナ感染拡大予防の為、残念ながら2回目の講習会開催を断念せざるを得ませんでした。

感染が治まらない令和2年度は計画の段階から開催形態をWeb講習会としました。講師はこの道の第一人者 東京都健康長寿医療センターの平野浩彦先生と枝広あや子先生。日本各地で引っ張りだこの人気の両先生ですが、我が茨城県は介護委員の高橋健先生の顔効きで毎年講師を引き受けて頂いています。

ここで両先生と交渉役を引き受けて頂いている高橋健先生に感謝申し上げます。

こんな努力をして、毎年ほとんど同じ内容での「歯科医師認知症対応力研修会」を開催する理由について、その背景を考えてみましょう。

皆さんも何回も耳にされている事とは思いますが、我が国は少子高齢・人口減少、地域社会の脆弱化等、社会構造の変化の中にあり、今後、我が国の高齢化はますます進行し、併せて総人口の減少も進むことが見込まれています。また、一人暮らし高齢者の一層の増加が見込まれ、生活面や福祉面などで様々な課題が生じてきます。健康寿命や平均寿命の伸びにより2040年には高齢者となった男性の約4割が90歳まで、女性の2割が100歳

まで生存すると推計されています。

茨城県の65歳以上の人口は、令和2年10月1日現在844,209人となっており、その割合（高齢化率）は29.9%で、全国平均の約28.7%を1.2ポイント上回っています。茨城県の高齢化率の推移を見ると、近年急速に高齢化が進んできている状況にあります。この傾向は今後も続き、2025年（令和7年）には高齢化率が32.0%を超え、2040年（令和22年）には38.2%と約4割になると予測されています。団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）ごろには、75歳以上人口が65～74歳の人口を上回るものと予測されています。

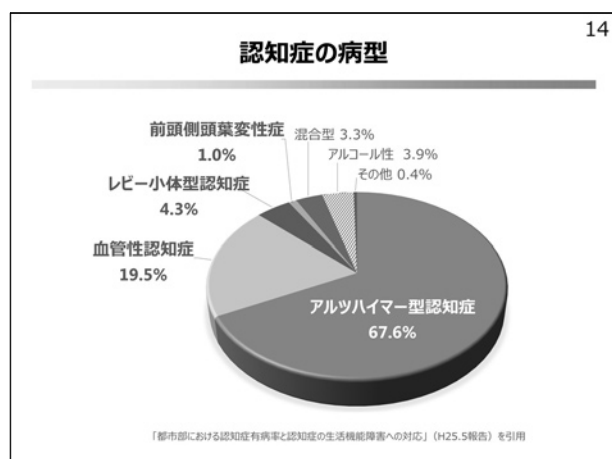
認知症の有病率も年齢とともに急峻に高まり、現在65歳以上の約16%が認知症であると推計されていますが、80歳代の後半であれば男性の35%、女性の44%、95歳を過ぎると男性の51%、女性の84%が認知症であることが明らかにされています。わが国は世界一の長寿国であり、認知症と共に生きる高齢者の人口は今後も増加し、2025年には高齢者の5人に1人、国民の17人に1人が認知症になるものと予測されています。

つまり、私達の診療室にも認知症を患った患者さんが何人も現れると言う事になります。

認知症とは、「何らかの脳の病的変化によって認知機能が障害され、それによって日々の生活に支障があらわれた状態」と定義されています。

全国の認知症疾患医療センターを受診した方の診断名の割合を見ると、アルツハイマー型認知症

が最も多く、血管性認知症とレビー小体型認知症がこれに続き、また、認知症の前駆段階で、軽度認知障害（MCI）と呼ばれる状態の方も数多く受診されています。認知症では、認知機能障害や生活障害とともに、さまざまな精神的・身体的・社会的な健康問題が現れて、そのことが生活の継続を困難にさせる要因になります。認知症と共に本人も家族も現在の生活を継続し、希望と尊厳をもって暮らすことができるように、認知症の各段階で障害の性質を理解し、本人や家族の生活ニーズを総合的にアセスメントし、必要な支援を提供することはとても重要です。



私達の診療室でも認知症を疑われる患者さんが来院された時には、それにふさわしい対応が求められます。認知症を理由に診療を断らず、認知症の症状をフォローして歯科治療を継続して頂きたいと思います。

歯科治療の不安に対応した環境整備

認知症の人は、急激な環境変化に適応するまでに不穏や混乱を起こし、帰宅願望を強く訴えることが多い

環境への不安

- できるだけ本人の様子を観察しやすいユニットに通す
- 治療内容や治療時間の終了の見通しを伝え、安心感を与える
- なるべく家族に同席してもらうように協力を得る

治療行為への不安

- 口腔・顎顔面、頭頸部への急な接触による不安の誘発に配慮する
- 口腔の過敏、水分や音の出る機械による恐怖に配慮する
- 信頼関係を保つ配慮、理解を促してから介入により安心を与える
- 顔を見せて話をし、見えないところから話しかけない

治療内容の理解を助ける説明

認知症の人は「治療内容が理解できない」と考えるのではなく、低下した認知機能に見合った情報提供の方法と時間を考える

- 認知症の人の理解のため、同じ説明方法を繰り返し用いるようにする。
- 認知症の人の理解力に合わせた説明方法を探る
- 治療内容について、図や模型をまじえた説明用紙等を利用する
- 説明後、忘れていても根気よく同じメッセージを繰り返す

41

本研修会は『認知症の人本人とその家族を支えるために必要な基本知識や、医療と介護の連携の重要性等を習得するための研修を実施することにより、認知症の疑いのある人に早期に気づき、かかりつけ医等と連携して対応するとともに、その後も認知症の人の状況に応じた歯科治療・口腔管理を適切に行い、認知症の人への支援体制構築の担い手となる』ことを目的に実施する研修です。

今までに、406名の方が受講されました。

県は本研修会の受講者数を2023年度（令和5年度）までに700人と見込んでいます。

つまり同様の研修会は来年度も実施される事になります。

平野先生の講演の結びにありました様に、私達歯科医師は『たとえ認知症の専門家ではなくても、口の専門家として素人の家族に向き合い、共に頑張っていく姿勢』を見せて行く事が望まれていると思います。

最後に、又、次年度の認知症対応力向上研修会の案内が参りましたら、これらの背景にご理解いただき、先生・衛生士さんのみならず、診療室勤務のすべての方に受講をお願い致します。



【歯科技工士国家試験】

(歯科技工士科)

令和3年2月28日(日)、全国統一歯科技工士国家試験が日本歯科大学生命学部において実施されました。

今年はコロナ禍での受験ということで、全国のような学習状況への配慮か例年より遅い日程となりました。本校でも4月の始業直後から休校を余儀なくされ、先の見えないスタートでしたが、登校できない期間の授業は夏休み返上で対応しました。その後も感染者数の増減が繰り返される中、直前まで色々と心配されましたが、2年生7名は前日に試験会場近隣のホテルに宿泊し、無事に試験当日を迎える事ができました。当日は緊張した様子もありましたが、体調も問題なく、実地試験、学説試験とも落ち着いて受験できたようでした。

合格発表は3月26日(金)14時となっております。7名全員が2年間の学習成果を合格という形で残すことができると祈っております。

そして、免許取得後は各々の場所で歯科技工士としてスタートすることになりますが、2年間の学生生活で学んだ歯科技工の基本を忘れず、臨床の場で技術を磨き、歯科技工士として長く活躍し続けることを期待しております。

(文責 中村)



【歯科衛生士国家試験】

令和3年3月7日(日)、第30回歯科衛生士国家試験が東京の成蹊大学で行われました。3年生の授業は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策の中で、リモートによる講義やマネキンを使用した演習などが行われ、学生も例年とは異なる学校生活を強いられた1年でした。それでも、国家試験が迫るにつれて受験生らしい顔つきになり、年が明ける頃から緊張した空気がクラス全体を包み込んでいきました。

3月6日(土)国家試験に向けて水戸を出発し、試験会場となる成蹊大学に向かいました。バスの中では、いつもと変わらぬ様子の学生達でしたが、街中に位置する大学の建物を確認すると、明日の国家試験が一層現実味を帯びてきた様子でした。

ホテルに到着後は缶詰め状態で、自分の部屋で集中して最後の確認をする学生、また友達の部屋で集まって問題を出し合う学生達とそれぞれが明日の試験に備え貴重な時間を過ごしました。

翌、試験当日は、昨日の春のような陽気とは打って変わって真冬に逆戻りしたような寒い朝となりました。



試験会場はいくつかの建物に分かれていて、既に多くの受験生が、建物の校舎前にあふれていました。1年生の時からお世話になっている東京歯科大学の橋本先生が声をかけて下さり、緊張と寒さで震えていた学生も、先生の「大丈夫。大丈夫。」という力強い言葉を聞いて一気に元気を取り戻しました。多少の混雑はみられましたが、全員受験票を手にしながら校舎の中に入っていました。長いと感じた3年間も今日というこの日を迎えた今は、あっという間の時間であったと学生の後姿を見送りながら思いました。

午後4時過ぎ、試験を終えた学生達は、試験が終わった安堵と合否の不安を抱えて校舎を後にしました。3月26日の合格発表の日にはみんなの笑顔が見られることを願わずにはられません。

春からは社会人として自分の道を進み、困難とを感じる事をいくつも経験しながら、自分が正しいと納得いく選択を重ねて歩んでほしいと思います。

(文責 根目沢)

【令和2年度卒業式挙行】

喜びと期待を胸に

3月9日(火)午前10時より茨城県歯科医師会館講堂で卒業生を含む、関係者約120名を集めて茨城歯科専門学校の卒業式が挙行されました。今回は、新型コロナウイルスの感染予防のため規模を縮小しての開催となりました。

本年度の卒業生は歯科衛生士科48名、歯科技工士科7名です。

式は、岡崎恵一郎副校長の司会により進められ、校歌斉唱に続き小澤永久教務副部長(歯科衛生士科)野口知彦教務副部長(歯科技工士科)が卒業生の氏名点呼を行い、征矢亘校長から各科の代表に卒業証書、記念品が授与されました。



卒業証書、記念品の授与

次いで成績優秀者・無欠席者・特待生の表彰が行われました。

◇成績優秀者

(歯科衛生士科) 岩渕未夢加さん

坂内ましろさん

小野菜々香さん

(歯科技工士科) 吉江 真輝さん

小田部留唯さん

◇皆勤賞

(歯科衛生士科) 所 帆乃果さん他9名

(歯科技工士科) 小田部留唯さん他5名

◇特待生褒賞

(歯科衛生士科) 岩瀬未夢加さん

(歯科技工士科) 仲田 真康さん

以上の表彰者に表彰状と記念品が授与されました。

次に森永和男名誉校長が「現在は超高齢社会で、高齢者が如何に健康で楽しい人生を過ごせるのかに社会の目が向けられていますが、それを担うのは皆さん歯科衛生士、歯科技工士です。国家資格を持つという事は、国に選ばれた社会人であるという事です。そのことを自覚し、これからも一人一人が精進して、前向きの精神で社会に貢献していただきたい。」と訓辞を述べられ、征矢亘学校長の式辞では「これまで勉強してきたことは基礎の基礎でしかなく、これから医療現場において大きく羽ばたくには、研鑽を積み重ねていかねばなりません。単に技術や知識の習得だけでなく、患者さんの気持ちのわかる歯科衛生士、歯科技工士になってほしいと思います。今日の感動を忘れず、常に正しく、強く、志高く邁進することを望みます。これから、皆さんが幸多き人生を歩まれることを祈念いたします。」とはなむけの言葉が送られました。

次に、特別表彰として、表彰者が紹介されました。

◇特別表彰

いばらき専門カレッジリーグ賞

(歯科衛生士科) 角谷 堇さん

(歯科技工士科) 瀬谷 美結さん

◇日本歯科衛生士会長表彰

学術優秀賞

(歯科衛生士科) 鈴木 里奈さん

◇日本歯科技工士会長表彰

学術優秀賞

(歯科技工士科) 仲田 真康さん

その後、在校生代表の和田美咲さんの「人々に愛される歯科衛生士、歯科技工士になって私たちの模範でいて下さい。」と心のこもった送辞を受けて、卒業生を代表して小松 有希さんが感謝の言葉とともに「立派な歯科衛生士、技工士になることを誓います。」と答辞を述べました。



送辞を述べる和田美咲さん



答辞を述べる小松有希さん

最後に、卒業生代表の阿部葉さんからの記念品贈呈で式は終了しました。

(文責 小田倉)



第13回水戸市歯科医師会市民講座

免疫力を劇的に上げる 新型コロナ時代のセルフケア いまこそ 口と鼻の健康が大切

日時：令和3年2月14日（日）午前10：00～

場所：オンデマンドによるオンライン配信

講師：今井 一彰（福岡市みらいクリニック）先生



（社）水戸市歯科医師会 加藤 毅

13回目となった水戸市歯科医師会市民講座は、主催水戸市歯科医師会、共催水戸市、後援茨城県歯科医師会で実施されました。

例年とは異なり、コロナ禍によって例年通りの市民公開講座を開くことができませんので、インターネット配信によって今までとは異なる形での開催となり、水戸市歯科医師会のホームページへアクセスするとYouTubeによる配信で見ることができました。

今回は3年連続で講演をお願いしておりました、あいうべ体操やゆびのぼ体操で周知されている今井一彰先生の最後の公演です。

初めに、新型コロナの家庭内感染が起こらないように自分の体を守る、うつさないようにするためには元気な状態を維持することが必要で。飛沫感染を起こさないように考える際に守る予防と攻める予防を例にあげました。

社会情勢、ウイルス活動、人の動きなど、コントロールできないものを防ぐ予防と、運動、呼吸、食事、言葉や目に入るもの、聞くもの、自分自身



でコントロールできる攻める予防、後者はセルフケアの意識を高めることで健康度合いが変わることです。

講演は、自分自身をコントロールするための3つの攻める予防として、鼻うがい、ペロトレ、口テープを中心にお話されました。

鼻うがい

新型コロナウイルスの予防は、3つの愛「i」、（Kanki・Tearai・Hanaugai）で、鼻うがいでウイルス家庭内感染が35%減少、症状を1.9日早く改善させた実験報告、洗口液30秒のうがいでウイルスは99.9%死滅するので利用してみましょう。30秒

は結構疲れるので口腔機能のトレーニングにもなることも付け加えておりました。

口腔内もきれいにすることも大事で、鼻うがいのほかにも4つ目の「i」としてHamigakiも最後に加えました。

セルフケアの話として、人はどうして病気になるのだろうという疑問から口呼吸について着目し、鼻呼吸が正しい呼吸であることを解説。鼻呼吸をすることで有害物質のブロック、吸った空気の加熱、湿度を保った空気を体内に取り込むことができ、鼻や気管支の繊毛の働きを保つことができます。ウイルスの侵入を防ぐことができます。

攻めの予防として「あいうべ体操」によって正しい舌の位置を維持することで、口呼吸から鼻呼吸を促しましょう。口呼吸の弊害として喘息につながりやすいという例、舌の位置が正しくするには舌の筋肉が必要で、舌と全身の筋肉は大きく関係しており寿命にもつながる話、ベロトレで正しい位置に回復することで正しい鼻呼吸になり姿勢も良くなった症例写真などで市民の方向けにも分かり易く鼻呼吸の良さを説明してくれました。

ベロトレ

あいうべ体操はマスクしているとベロを出せないで「マスク時代のベロトレ」として、ベロ回し左右10回、噛まない食事ではなく硬くて歯ごたえのあるものを食べることで噛む力と筋力の衰えを補ないましょう。

舌の正しい位置で鼻呼吸が大事です。

口テープ

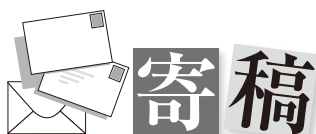
目的は夜間の口呼吸を防ぐためにおこないます。無意識に口を開けて寝ている写真を見ながら口呼吸をすることで乾いた空気が体内に入って繊毛が機能しないので感染しやすくなるでしょうという例あげて、テープをすることで口呼吸を防ぎ鼻呼吸の大切さを強調されました。

詳しく知りたいのであれば、みらいクリニックのホームページを参照にしてくださいとのことでした。

最後に、詳しい解説はありませんでしたが、ゆびのば体操の話を加えました。その体操の効果を症例、80歳女性の高強度インターバルトレーニングで足腰を鍛え機敏に体を動かしている映像を見ながら、足腰が弱らないようにしましょう。筋肉がつくことで、頭脳も明晰、気持ちもはればれコロナ明けは今より元気な状態で迎えられるように、自分の体、健康は自分自身でコントロールして自分で守ることを力説されました。

最後に、「いまこそ口と鼻の健康が大切、免疫力を劇的に上げる新型コロナ時代のセルフケア」で話したことを、セルフケア、ご家族のために実践してみても如何でしょうかという言葉で締めくくりました。

最終的にはこのような形となってしまいました。3年間熱弁してくださいましてありがとうございました。



“医聖達の系譜 外伝 ロンドン・パリ編” その七 パリの医学史跡 前編

(社)鹿行歯科医師会 田中 晃伸

《・・・しいて言えば残尿感》

この外伝ロンドン・パリ編も足掛け6年になる。

パリは世界トップクラスの人気観光地であるが、2015年に妻と訪れた時も観光名所に行くことなく、ほとんどが医学史関係の見学巡りで妻には呆れ果てられた。

ただその中で、唯一見学できなかった場所がある。

デュプユイトラン博物館である。

ギョーム・デュプユイトラン (Guillaume Dupuytren 1777-1835) は18世紀末から19世紀初頭にパリで活躍した外科医である。

デュプユイトランは多数の病理解剖を行い、その基礎学の上に確立された手術の巧みさは他の追随を許さず、外科医としての評価は全ヨーロッパに鳴り響いていた程である。

彼の病理標本が陳列されている博物館が5区の医学部通りの近くにあると聞いていたので、妻と出かけたがすでに博物館そのものが消失していた。

最も訪れたい博物館であったが、諦めざるを得なかった。

ただ、帰国後も思い出の写真を開くたびに、精神の片隅で知的要求感が混沌とした靄のように滞留しているのである・・・

と表現するといかにも文学的であるが、しいて言

えば“残尿感”のような感情だということである！

その後、どうしても諦めきれずネットで色々調べているうちに、彼の標本はソルボンヌ大学で保管・管理されていることがわかったが、現在は全くの非公開とのことであった。

思い切ってソルボンヌ大学まで問い合わせてみた。

勿論、メールにフランス語（というか単語の羅列・・・）を載せて！

何度かのやりとりで管理担当者のEloïse Quérel嬢とコンタクトを取ることができた。

彼女曰く、その標本集は学生か研究者のみが見学可能であり、一般での見学は許可できないとのことであった。

それでも日本の研究者だという突拍子もないウソも織り交ぜ、粘り強く交渉を続けると、優しいパリジャンからなんと見学許可のメールをいただいた！

Quand je le fais, je le fais !

(俺もやる時はやるぜ!!)

そこで2018年の春にパリを再度訪れることにした。

ただ、その標本を見たいがために・・・

馬鹿だなあ・・・

さて、パリ到着後早速セーヌ川左岸の5・6区にあるソルボンヌ大学（図1）に向かった。

事前に見学申請書を提出しているがそれが図2である。

6枚近い注意事項と申請書・誓約書の作製は、Eloïse嬢の心のこもった懇切丁寧なメールのやりとりで何とか事なきを得たわけである。

実は、この頃から筆者の心中ではこのパリジャンに対して感謝だけではなく“Amour”が芽生え始めていたのである。



図1 ソルボンヌ大学

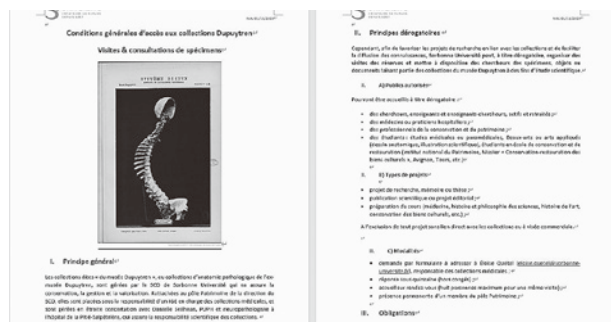


図2 ソルボンヌ大学の6枚近くにわたる説明書と申込書の一部

Eloïse嬢と大学のセキュリティゲート前で待ち合わせをすることになった。

妄想開始～～

無論、彼女と会ったことはないが・・・

締め付けるような黒のタイトスカートに開き気味の白いワイシャツ！

細い足首からそのまま伸びたかと思えるほどの

ピンヒール！

そして片手にファイルを抱えて・・・

知性と個性のギャップを感じさせながらきっと颯爽と出迎えてくれる・・・

彼女もまた、東洋からやってきた素敵な紳士（ちなみに私のことである）を一目見て恋に落ちていく・・・

～～妄想中～～

・・・実際に出迎えてくれたのは、肉付きのよい赤毛のいかにも最近の若者らしい女性であった。

勿論、想像とは違うもののとても素敵な笑顔で、本当に親切かつ優しく対応してくれたのは事実である。ただし、両腕の色鮮やかなタトゥーには少々たじろいだが。～～妄想完全撤収!!



図3 担当者のEloïse嬢

デュプュイトランの標本は図書館の地下倉庫に厳重に保管されていた。

撮影は禁止であるが約1時間にわたる見学は至福の時であった。

お見せできないことは大変残念であるが、膨大な病理・骨格標本にはさすがに圧倒された。

彼の登場前は、医学は内科医が優位な立場の社会であり、理髪師（床屋外科）がその内科医に指示されながら手術をしていた時代である。デュプュイトランによって外科医は独立性の高い職業となるのであるが、彼がいかに優秀で大胆な外科医で

ありかつ研究者であったことが十分に理解できる標本集であった。

色々な経緯を経て筆者はこうして清々しい“放尿感”を得られたのである。

もっとも身体的残尿感は寄る年波に勝てず益々ひどくなっているが。

《ホテル・デュー》

以前、幕末の医師高松凌雲（“医聖達の系譜 医聖達の系譜 その一二 高松凌雲 2012年8～10月号”）を紹介したことがある。

その高松凌雲が学んだ場所がホテル・デューである。

当時のパリは革命によって社会構造が大きく変化し、新しい概念が芽生え始めた。

医学の世界においてもその変革は目を見張るものがある。

そもそもパリはそれを受け止めるだけの土壤を持った都市であったことも事実である。

ホテル・デューはパリ中心部シテ島にある世界的に有名な建築物ノートルダム寺院広場の左側にある。

ホテル（仏語的にはオテル）という意味は、元来、病院（診療を行う場所）というよりもキリスト教的な貧者救済のための施設であった。さらに病者や犯罪者の収容施設となり、そこで診療機能が付加されてきたのである。

少し話がそれるが、現在、日本においても医療法で病床20以上と未満で“病院”と“医院”で区別されている。

江戸時代は医療を目的とした施設は“養生所”と呼ばれ、幕末から維新の戦乱において“病院”が各所に設立された。ただし、明治の初頭において大学東校（後の東大）を主宰していた佐藤尚中（順天堂創始者 佐藤泰然の養子）が、“病院”はただ

病人を集めた所であり病人を治すという意味が含まれていないということで、当時の文部省に『病院改称伺』建白している。

後に尚中が順天堂を引き継いだ後も、順天堂大学は“順天堂病院”はなく“順天堂医院”を呼称し現在に至るのである。

さて前述したように18世紀末頃より仏医学は中世の古典的な衣服を脱ぎ捨て、内科医優位の時代から実践的な外科医が目覚ましい活躍を始めた。

さらに19世紀に入り実証・実験的な医学も盛んに行われ、凌雲が学んだ当時の仏医学はヨーロッパの中でも極めて高い水準にあった。

さてそのホテル・デュー病院であるが、ロマネスク様式の対照性の美しい建物であり立ち入る者は威圧される（図4・5）。



図4 ホテル・デュー



図5 ホテル・デューの中庭

その中庭の中央に、明らかに周囲の雰囲気とそぐわぬ色彩豊かな人物像が

・・・と言えばまだ品を感じるが・・・何とも表現しがたい

テレビ画面のサブリミナル効果にすれば、如何なく発揮する色彩で塗装された人物像である。

この人物こそデュプイトランの像である。

ちなみにこの塗装は学生達の伝統的なイタズラらしいのである。

何ともシニカルに笑えるフランス人の奔放さとユーモアを垣間見ることができた。

なお、この病院は現在もパリの基幹病院として機能している。

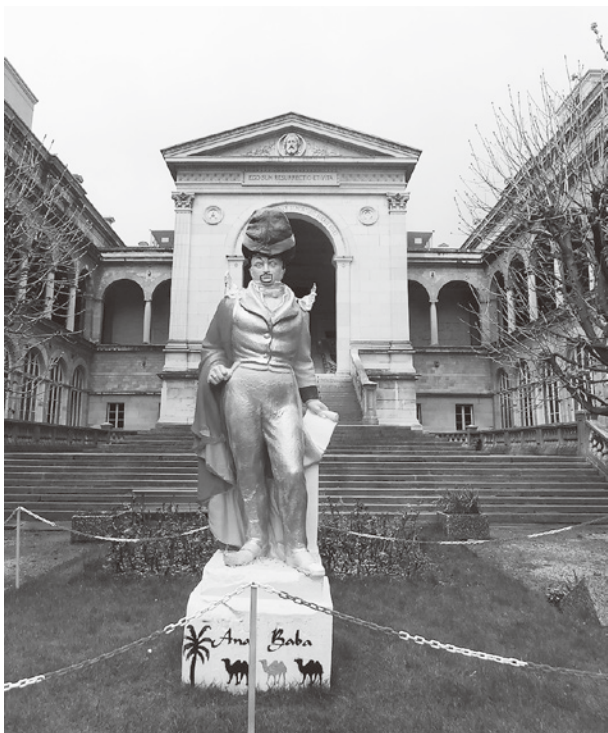


図6 学生達にいたずら書きされたデュプイトラン像

《医学博物館》

6区のパリ第5大学医学部の中に医学博物館(図7)がある。

パリには30年以上前から何度か訪問しているが、この博物館の開館日時や場所がわからずなかなか

訪問できなかった。

ただし、ここ10年程前からインターネットの発達によって博物館の事前情報を得ることができ、大変ありがたい。

さらには、前述のようにメールでのやりとりもPCの翻訳機能で補える訳であるから、“馬鹿重量級のチャンピオンベルト”を腰に巻いている筆者でも、何とか訪問できるようになった。



図7 サンジェルマン通りにあるパリ第5大学(右側の建物)

館内(図8)はさほど広くはないが、ヨーロッパを中心とした医療器具が展示されている(撮影可)。

その種類は非常に豊富であり、今まで訪問した各国の医療博物館の中でも多分に一番多いのではないかと思えた。



図8 医学博物館



図9 抜歯器具（歯鍵）

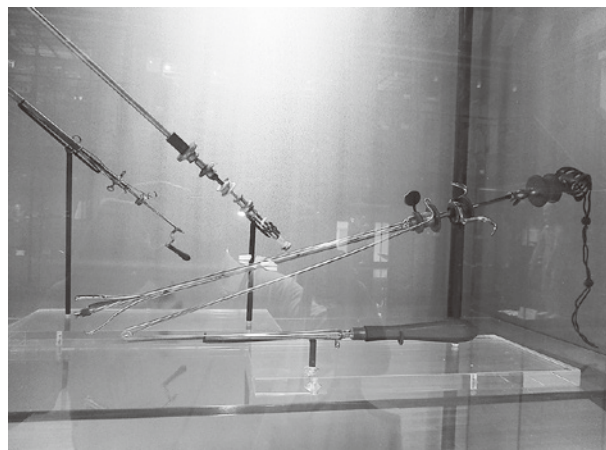


図11



図10 象牙製の義歯など

勿論、歯科に関わる器具も多種展示されている（図9・10）。

いくら見ても見飽きることはない。

さて、写真は長さ1m太さ小指ほどの膀胱・尿路結石の治療器具（図11）とその使用方法（図12）が解説されている。

……男性読者諸君にはその身の毛もよだつ使用法を想像し、何をかいわんやを感じ取っていただけるだろう……

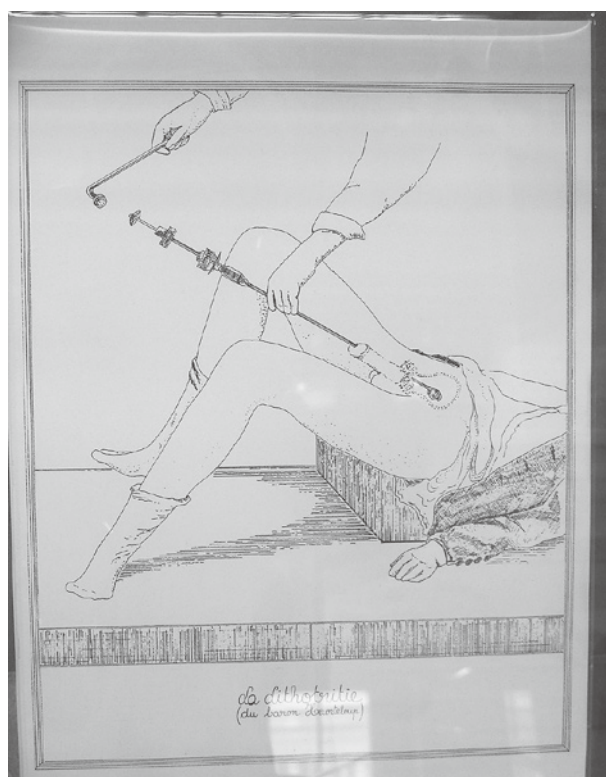


図12

前編は終わる。

ロンドン・パリ編も次回で最後になる（多分……）。

いつもながらの駄文が続き広報の諸氏先生方には大変迷惑をおかけしている。

すまぬ！

みんなの写真館

Photo
Gallery



山高神代桜 山梨県北杜市武川町4月上旬
実相寺境内にある樹齢2000年日本最古のエドヒガンザクラ
樹高10.3m、幹周り118m



上田城の桜



盛岡石割桜



真鍋小学校（土浦）

(社)茨城県南歯科医師会 齊藤 澄夫

会 員 数

令和3年2月28日現在

地 区	会員数(前月比)
日 立	114
珂 北	146 -1
水 戸	155
東西茨城	73
鹿 行	101
土浦石岡	179
つくば	136
県 南	175
県 西	154
西 南	105
準 会 員	6
計	1,344 -1

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員 1,136名
2種会員 77名
終身会員 125名
準 会 員 6名
合 計 1,344名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 令和3年4月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和2丁目292番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進

編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。